

令和7年度岡山県農林水産総合センター水産研究所試験研究課題評価結果票

＜事前評価＞

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	R7年度-事前1						
課題名	継代した県産系統アユ種苗の冷水病耐性および種苗性評価試験						
課題の概要	海産アユが冷水病に強いことは既知であるが、継代された県産系統種苗の冷水病耐性や種苗性の劣化を評価した例はない。そこで、水産研究所で作出継代した種苗を用いて、冷水病耐性や放流効果を評価し、より効果的な種苗の生産・放流を実現する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	4 人	1 人	人	人	人	4. 8
	有効性	1 人	4 人	人	人	人	4. 2
	効率性・妥当性	2 人	3 人	人	人	人	4. 4
	総合評価	3 人	2 人	人	人	人	4. 6
助言・指摘事項等	・ 標識放流実験では、先に放流された系統の個体によるなわばり形成（先住効果）が結果に影響する可能性があり、その考慮が必要である。また、系統ごとの放流個体数を統一するなど、適切な実験デザインとなるように十分に検討していただきたい。 ・ 過去長い間進展の乏しかった課題によりやく光明がさした印象を受けた。フィールド調査や感染試験、飛び跳ね試験など手間と時間のかかる課題だが、結果に期待している。ただ、冷水病だけがアユ不漁の原因ではないと思われることから、本課題に一定の見通しがついたら、別の視点に基づく調査研究も手掛けて欲しい。 ・ アユ本来の再生産ができる環境作りと平行に岡山ブランドアユの親魚養成、種苗生産をすすめ、将来は天然資源の管理と併せて、豊かで親しまれる川づくりをしていただきたい。魚道の改良は必要だと思われる。また、確立した技術は民営化が望まれる。 ・ 継代していく難しさもありますが、ブランドアユ楽しみにしています。 ・ 継代や戻し交配の有効性を明らかにすることは、現場のニーズに合致しており、さらに生産現場での効率化にも寄与するものと思われることから、実施は適当であり成果に期待します。						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。

令和7年度岡山県農林水産総合センター水産研究所試験研究課題評価結果票

＜事後評価＞

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	R7年度-事後1						
課題名	ICT技術を活用した海域環境の予測技術の開発						
課題の概要	水温については、これまで国の汎用的な予測モデルが漁業者等に利用されていたが、その運用が終了する。そこで、本県独自のシステムを開発、運用する。栄養塩については、本県が国内で初めて運用を開始した栄養塩のリアルタイム観測システムと潮位や流速等の水質観測装置を組み合わせ、栄養塩の変動要因の把握に取り組む。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	1 人	3 人	1 人	人	人	4. 0
	有効性（効果）	1 人	3 人	1 人	人	人	4. 0
	有効性（目的以外の成果）	1 人	2 人	2 人	人	人	3. 8
	効率性・妥当性（費用対効果）	人	5 人	人	人	人	4. 0
	効率性・妥当性（計画）	1 人	3 人	1 人	人	人	4. 0
	成果の活用・発展性	2 人	3 人	人	人	人	4. 4
	総合評価	1 人	3 人	1 人	人	人	4. 0
助言・指摘事項等	・漁業者や一般県民にとっての活用ニーズの高い成果が得られたと評価される。今後、地球温暖化の影響により海水温が上昇すると予測されるため、モデル式の妥当性については、事業終了後においても定期的に確認していくことが望まれる。 ・情報発信も実現しており期待通りの成果と思う。栄養塩低下については現実的な対策がないことが最大の課題だが、網あげのタイミングを考える材料にはなっている。 ・県ごとでなく、瀬戸内海全体の水温等が示されると利用しやすい。 ・今後も他県との連携を強めてより精度の高い情報発信を続けていただけることを期待します。 ・ノリ養殖だけでなく、広く水産業界にとって必要とされている水温予測技術を確立できたことは、大変評価できる。さらに、栄養塩の変動要因解明にも糸口を付けたことで、今後の栄養塩変動予測技術の開発と、その情報発信に期待します。						

注意事項 事前評価と同じ